



もくじ			
えび人 vol.102	2	文化会館	10
今号の表紙	3	相談	11
「#好きです海老名」		図書館	12
写真募集	4	子育て・HUGHUG赤ちゃん14	

**「広報えびな」の共通マークとルール**

日時・日にち 期間 時間 場所 対象 定員  
内容 講師 費用 持ち物 その他 任期  
条件 主催 Eメール ホームページ 問い合わせ  
申し込み 予約制 祝日・振替休日を除く 休み

 高齢者対象の教室など  えびな健康マイレージ対象

市〇〇〇課への郵送…「〇〇〇課へ」とあるものは「〒243-0492海老名市役所〇〇〇課行」で届きます  
 市役所開庁時間…省略している場合は原則「月～金8時30分～17時15分」

今号の表紙

題字と写真は市民の方の作品を掲載しています。ご協力ありがとうございました。

題字

えびな



海老名の公園が大好きです。  
 上星小学校 磯沼柚花さん(10歳)

写真

タイトル：夏の訪れ  
 撮影場所：柏ヶ谷付近  
 撮影者：柏ヶ谷在住 渡邊愛祐さん



(写真上) 人権擁護委員の活動に関わる人たちとは、笑い合える関係性  
 (写真中) 米作り体験に田んぼを提供。体験後にご飯を残さなくなった子ども  
 (写真下) 甘さが自慢のタマネギ。畑仕事は愛おしい作業



「大丈夫」が力に  
 今度は私が返す番

「人に助けられながらの人生だった」と振り返る二見さん。「人に、大丈夫よ」と言われることで力を得る。一生ものの体験をしました。私も今は同じように、大丈夫を人に返せるまでになり、子どもにも周りにも私自身を育ててもらった」と、次男に障がいがあったことがわかってからの、泣く暇もなかったほどの子育て時代を思い出します。

悩みを抱える人の心に寄り添う人権擁護委員の活動は、二見さんのライフワーク。「人に相談するということはその前にたくさん悩んだということ。門戸を叩いてくれたその勇氣に、ありがとう」という思いです。「子どもの人権意識を育む分野にも注力しています。「啓発の紙芝居を食い入るように見て、メッセージを受け止めてくれる。育つ、広がる」が実感できて、とてもやりがいがあります」

今ある日常を大切に、目の前のことに懸命に向き合う。「二見さんの人生は、今日も誰かを支える力になります。」

**今月のえび人**

二見隆江さん  
 (本郷在住・69歳)

人権擁護委員歴22年。現会長。ありまっ子応援団運営委員会副委員長で、米作り体験に協力。特別支援学級に通う子の親へのアドバイザー役も長年務めた。

編集雑記

子どもがまだ赤ちゃんだった頃、なかなかおしゃべりが上達せず、ほかのお子さんと比べては発達の遅いことに落ち込む日々でした。子育て支援センターで悩み事を相談すると「成長の早さは人それぞれ。比べなくても大丈夫」と声をかけてもらい、そこから子育てが楽になった思い出があります。私も今号の「えび人」のように、困っている人に「心配しなくても大丈夫」と声をかけ、寄り添える人になりたいです。(F)